

桑名市議会議長
南澤幸美様

教育福祉委員会委員長
富田 薫

議会いきいきトーク実施結果報告書

開催日時	令和4年 8月24日(水) 13時30分 ~14時30分		
開催場所	はまぐりプラザ4階会議室		
出席議員	委員長	富田 薫	
	司会	富田 薫	記録者 渡辺 仁美
	議員:(委員長)富田 薫 (副委員長)水谷 憲治 渡辺 仁美、森 英一、太田 誠、諏訪 輝富、倉田 明子、 伊藤 真人、石田 正子 9名		
参加人数	桑員社会保障推進協議会 12名		
いきいきトークの概要	認知症予防や地域活性化の観点から加齢性難聴による補聴器の購入に公的補助や、早期発見のための公的な聴力検査の導入について		
主な意見・要望	<p>【ご意見・ご要望】</p> <ul style="list-style-type: none">・会社等で働いている時は、健康診断の検査項目に聴力が含まれている場合が多いが、難聴になりやすい年齢の検査項目には含まれていない。難聴は認知症とのつながりも指摘されており、早期発見のための公的な聴力検査の導入が重要ではないか。・日本では補聴器が高額であることも、普及の妨げになっている可能性があるのでは。全国の自治体で補聴器の購入補助を行っている市町はたくさんある。桑名市でも公的補助を行ってほしい。・日本では、難聴は「障害」と認識され、医療の対象とならない。また、難聴は一度進むと改善しにくく、早期の対応が重要である。 <p>【議員からの意見】</p> <ul style="list-style-type: none">・試算によると、補聴器の補助を行う場合、1億円近くの財政負担となる見込み。今の桑名市の財政状況を考えると、桑名市単独で補助を行う事は大変難しいが、聞くことはコミュニケーションの視点からとても大切であり、実現できるよう取り組むことが大切であると考えている。・そもそも補聴器が普及していないから高額になっているという側		

	<p>面も。補聴器の必要性を知らせる取組みも重要。</p> <ul style="list-style-type: none">・全国 1,718 市町で助成制度があるが、全国一律で国が助成を行うのが最もよい方法であると考えている。医療の観点から国等に要望をあげていくことも必要では。・予算的な措置をすぐに行うことは難しいが、内科や耳鼻科等との連携については早期に行っていけるのではないかと考える。
備 考	

議会いきいきトーク記録

開催日時	令和4年 8月 24日(水) 13時30分 ~ 14時30分	
開催場所	はまぐりプラザ4階会議室	
参加人数	桑員社会保障推進協議会 12名 教育福祉委員会委員 富田薫 水谷憲治 渡辺仁美 森英一 太田誠 諏訪輝富 倉田明子 伊藤真人 石田正子 9名 計21名	
	参加者からの意見要望等	議員からの意見
参加者からの意見・要望等	<p>テーマ： <提言> 補聴器の公費助成の問題だけではなく、認知症発生の視点から問題としたい。働いているときは聴力検査をするが、それ以降、難聴になりやすい年齢の時の検査項目には入っていない。</p> <p>難聴者の医療費が高くなる傾向にあるという研究発表もあり、難聴からの認知症の発生確率が高い。認知症は予防対策できると報告されており、加齢性難聴は改善しにくいいため、あらかじめ検診をすることで予防になるのではないか。</p> <p>補聴器に対してネガティブなイメージが日本にはあるが、外国は早期からの装着を激励している。欧米では医療の分野だが、日本では障害の分野。補聴器が高額であることから日本では進まない理由であると考えられる。</p> <p>2025年には5人に1人が65歳以上。「認知症の容態に応じた、適時適切な医療介護の提供」「発病予防の推進」が具体的な施策とされている。特定健康診査などに併せて聴力検査・検診を実施して早期発見につなげては。健康寿命の延伸は、医療費の抑制にもなる。補聴器購入の公費助成を行っては。他市の事例も参考にしてもらいたい。</p>	

富田

補聴器の補助をしてもらいたいと思うし、補聴器自体がとても高額。今の桑名市の財政状況を考えると、今すぐ桑名市単独で行うことは非常に厳しいと勉強会を行って金額を試算してみた。加齢性難聴の対象者を非課税世帯など2万人として、約1億円かかると試算されている。数100万円ならば実現性は高いと思うが、桑名市の予算が大体500億円のうちの1億を補聴器補助に回せるかどうかと言えば現実的ではなく難しい。しかしながら、やらなくていいというわけではないので、実現できるように向けていくことが大切だと思っている。また、補助の線引きをどこで行っているのか他の市町を調べたところ、財政的に比較的裕福な自治体が多い。出切れれば線引きなく平等に提供したいと思う。

伊藤真人

母も補聴器をつけているが、装着してもあまり変わらない人もいる。ヨーロッパにメーカーが多いが、国の制度自体も見直していかなくてはいけないと思った。聞くことはコミュニケーションの視点からとても大切。

石田

議会で取り上げたこともあり、どのように持っていくのが重要な検討課題。そもそも補聴器の販売の人から相談があったことから質問した。本来、身につけて欲しい人が購入できないことから手助けをできないかという提起。そもそも補聴器が普及していないので、普及が進めば手軽に購入できる価格になるのでは。家族の理解や使い方の理解も大切。いろんな立場の方から補聴器の普及や大切さを伝えていけると良いと思う。

・全国の自治体で、小さな町でもおこなっている。高齢化が進んでいる地域にあっては社会参加してもらうためには必要ではないか。防災の警報が聞こえない等がある。大きな予算を期待するわけではない。

本来なら国のレベルで検査すべき。医療機関と補聴器センターとつながる事ができれば、丁寧なケアがなされる。

費用対効果として介護保険や医療費の削減も効果になるということを議会でも伝えてもらいたい。聞こえた人の喜びを。事前の勉強会やケアが大切。

・東京都三鷹市は 1000 万円。早期発見は大切

・日本では難聴は医療の対象ではなく障害の対象。ヨーロッパでは医療で費用もあまり高くないはず。売る方と買う方の駆け引きがあるのでは。難聴の治療の効果とは。

・高齢者の集まりで専門家の人から聞いたりしている。集音器と補聴器は違う。補聴器は細胞が亡くなってからでは聴こえるようにならない。気がついたときの聞こえの水準を維持するためのことは今の技術ではできる。医者からは、片耳 10 万円で十分。白内障の場合は入れ替えるのでよく見えるけれど、耳は治らないといわれている。

・通販で 3 万円ぐらいの集音器を購入したが、いろいろな音を拾うので使えない。補聴器センターを紹介いただくが、外国製を 48 万円で買い、アメリカ製とヨーロッパ製が多く、毎月掃除と調整に来てくれる。電池がすぐ無くなるので 1 週間か 10 日もたない。寝る前には必ず乾燥剤にしまっておかなくてはならない。そのようなものだと使って初めて知った。

健康診断で早期に行っていただいて、できれば補聴器を使

	<p>わなくても良いように。年金生活からは購入費を捻出できない。</p>	
		<p>伊藤 購入補助は初期費用のみ。メンテナンスにお金がかかる。医療からは要望を医師会などに出したことはあるのか。</p>
	<p>・医療は本人に説明して、自分で判断してもらおう。ケアマネや家族が加わってくると、病状説明などもちゃんと受けられるように患者の権利のためにも対面で説明できる体制を。コミュニケーションツールとして便利なものがあるのだから利用できるように。高齢者になると検診が途切れることが課題。2015年から始まっている助成制度。メンテナンスなど費用対効果を考えて、実現をして欲しいなと思う。</p>	
		<p>太田 認知症の進行を遅らせることもできていると思っている。費用対効果も必要だが、医療の観点から要望を出していただくことも必要かと思う。全国でも1718市町で助成制度がある。桑名市が所属する全国市長会でも制度の拡充を国へ要望している。いろんな市町が別々のことをするよりは、全国一律の指針や助成を国が行ってくれればと思っている。今後の国の動向をしっかりと注視して想いを届けていきたい。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・難聴が医療の対象としてなるような方向が一番良いのでは。難聴と医療のはっきりとしたデータがあれば。 ・治療が必要な難聴かどうかのデータは集積されているが、それ以降検査がない事が問題。特別のことがなくても現状維持されるので、医師会の先生方にもお話を聞いてもらった方が良い。 ・補聴器の購入費用は、耳鼻咽喉科学会が治療の説明を聞くために必要と認めた場合は医療費控除の範囲。 ・高齢者の方が街に出て買い物をしてもらうことが良いのではというイメージ。 ・喫茶店でも聴こえるようにして人と話したい。交流の場に行くためにはとても大切。 	
		<p>森 公明党としても進めている。導入した市町は、ものすごく悩んで決めた政策になっている。今回も勉強会で、市としてできる範囲で試みてはどうかとは提案してみた。非課税世帯からというとなら1万人という悩みどころではある。65%の方が認知症は心配だと言われたが、財政との兼ね合いとしてどこまでできるか。</p> <p>倉田 聞こえないことを年だから諦めて、と言われることが多い。医療現場の方が勉強してもらうことも必要だと思う。すぐに予算補助金で解決はできないとはいえ、内科や耳鼻科との連携などはできるかなと思う。</p>

		<p>渡辺 外出支援などもまちづくりで大切。医療費抑制のためには予防医療が必要。どうやったら実現するのかを考えていくことや連携を進めてきたい。</p> <p>諏訪 ふるさと納税の項目に入れてみては、</p> <p>富田 とても勉強になりました。いろんなことを教えていただいたことで議会でもできるだけ反映できるように。 桑名でなんとかして行く以外に、国にも要望を伝えていくことも必要だと思っている。</p>
--	--	--